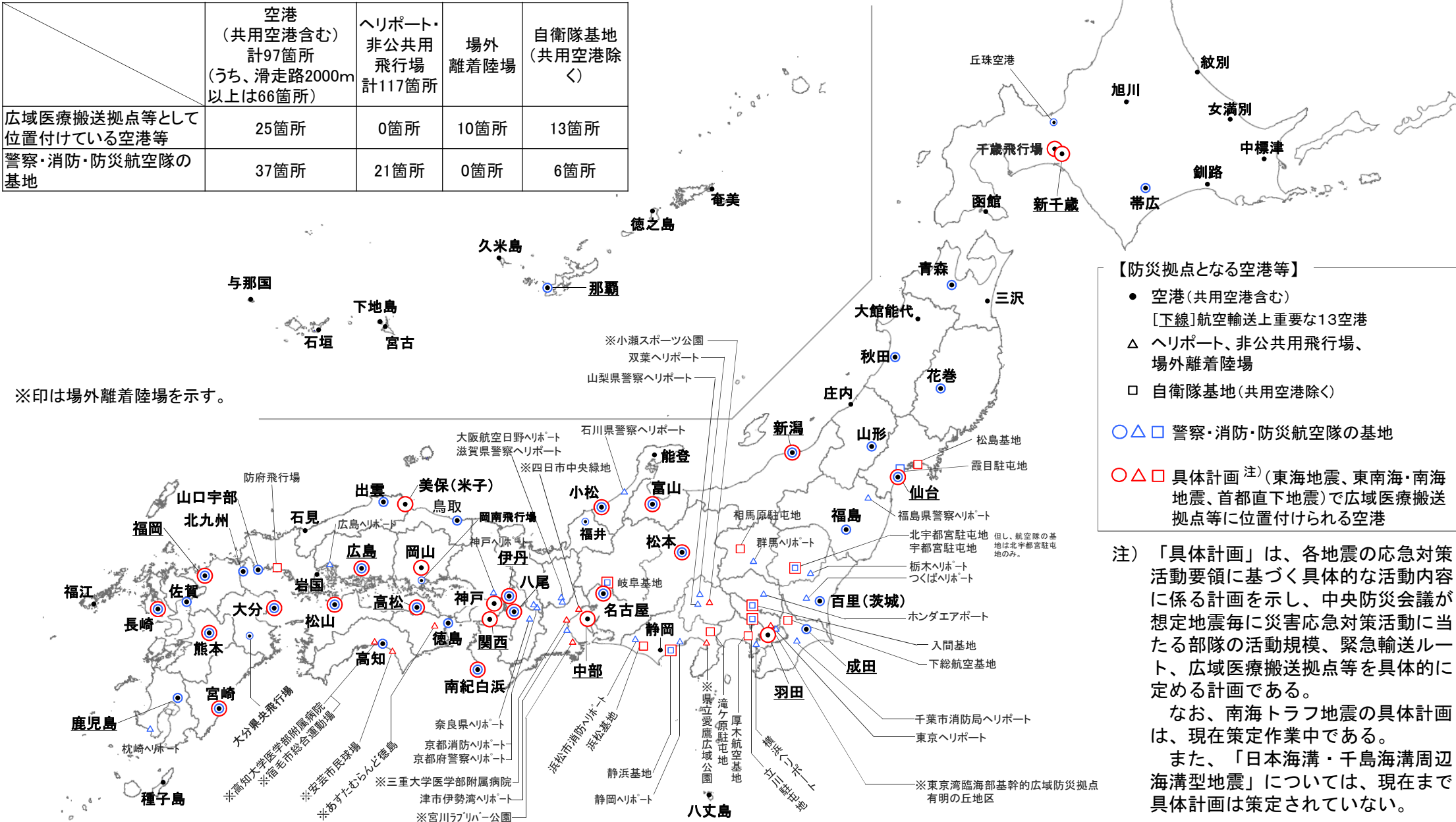


第 2 回委員会での指摘事項の補足説明

国土交通省 航空局
平成 2 7 年 3 月

防災拠点となる空港・ヘリポート・自衛隊基地等の状況

	空港 (共用空港含む) 計97箇所 (うち、滑走路2000m 以上は66箇所)	ヘリポート・ 非公共用 飛行場 計117箇所	場外 離着陸場	自衛隊基地 (共用空港除 く)
広域医療搬送拠点等として 位置付けている空港等	25箇所	0箇所	10箇所	13箇所
警察・消防・防災航空隊の 基地	37箇所	21箇所	0箇所	6箇所



注) 「具体計画」は、各地震の応急対策活動要領に基づく具体的な活動内容に係る計画を示し、中央防災会議が想定地震毎に災害応急対策活動に当たる部隊の活動規模、緊急輸送ルート、広域医療搬送拠点等を具体的に定める計画である。

なお、南海トラフ地震の具体計画は、現在策定作業中である。

また、「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震」については、現在まで具体計画は策定されていない。

右記の具体計画に基づく。

「東海地震応急対策活動要領」に基づく具体的な活動内容に係る計画(平成18年4月21日修正)
「東南海・南海地震応急対策活動要領」に基づく具体的な活動内容に係る計画(平成19年3月20日)
「首都直下地震応急対策活動要領」に基づく具体的な活動内容に係る計画(平成20年12月11日)

緊急輸送の拠点となる空港における耐震対策

地震防災対策推進地域等に所在する空港

具体計画で広域医療搬送拠点等に位置付けられる空港

【凡例】

- 滑走路長 2000m以上の空港
(共用空港を含む)

〔下線〕 航空輸送上重要な13空港

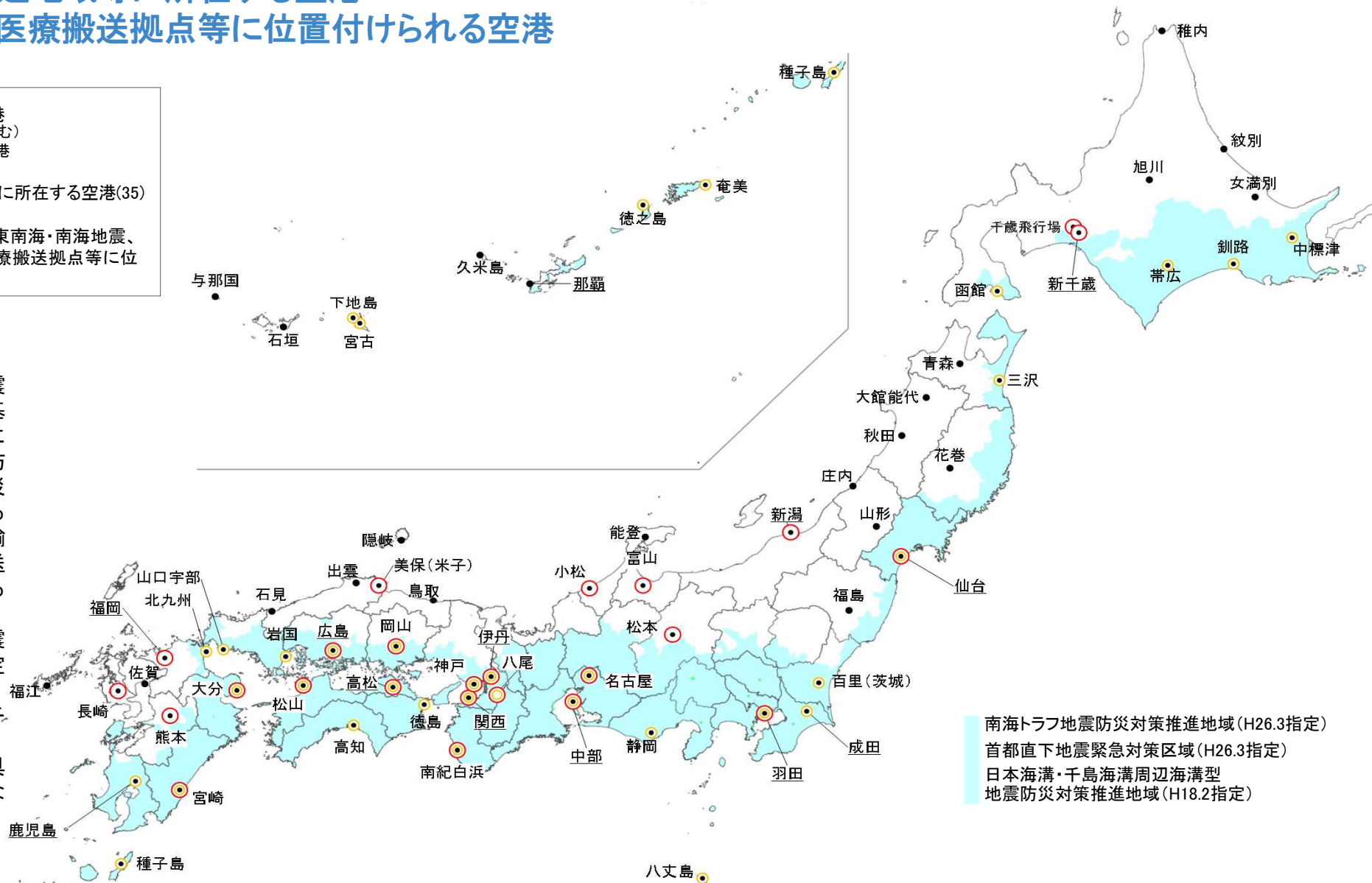
- 地震防災対策推進地域等に所在する空港(35)

- 具体計画^{注)}(東海地震、東南海・南海地震、首都直下地震)で広域医療搬送拠点等に位置付けられる空港(25)

注)「具体計画」は、各地震の応急対策活動要領に基づく具体的な活動内容に係る計画を示し、中央防災会議が想定地震毎に災害応急対策活動に当たる部隊の活動規模、緊急輸送ルート、広域医療搬送拠点等を具体的に定める計画である。

なお、南海トラフ地震の具体計画は、現在策定作業中である。

また、「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震」については、現在まで具体計画は策定されていない。



南海トラフ地震防災対策推進地域(H26.3指定)
首都直下地震緊急対策区域(H26.3指定)
日本海溝・千島海溝周辺海溝型
地震防災対策推進地域(H18.2指定)

注)実際の耐震対策の実施にあたっては、とりまとめの2.2及び2.3を考慮し優先する空港を選定する。

※出典:右記の具体計画を基に航空局で作成。

「東海地震応急対策活動要領」に基づく具体的な活動内容に係る計画(平成18年4月21日修正)

「東南海・南海地震応急対策活動要領」に基づく具体的な活動内容に係る計画(平成19年3月20日)

「首都直下地震応急対策活動要領」に基づく具体的な活動内容に係る計画(平成20年12月11日)

国の防災上の計画等で位置付けられている各空港の被災想定

 国土交通省

空港名	具体計画 に位置付け られている 空港	地震防災対策推進地域等の指定			南海トラフ地震		首都直下地震 想定最大震度
		南海 トラフ	首都 直下	日本海溝・千 島海溝周辺 海溝	想定最大 震度	津波被害想定	
新千歳空港	○				—		—
釧路空港				○	—		—
函館空港				○	—		—
仙台空港	○			○	—		—
成田国際空港			○		震度5弱		震度7
東京国際空港	○		○		震度5強		震度7
茨城空港			○		震度5弱		震度6強
新潟空港	○				震度4		—
富山空港	○				震度5強		—
小松飛行場	○				震度5弱		—
松本空港	○				震度5強		—
中部国際空港	○	○			震度7	空港の一部が浸水する。	—
名古屋空港	○	○			震度6強		—
静岡空港		○			震度7		—
関西国際空港	○	○			震度6強	空港の一部が浸水する。	—
大阪国際空港	○	○			震度6弱		—
八尾空港	○	○			震度6弱		—
神戸空港	○	○			震度6弱		—
南紀白浜空港	○	○			震度7		—

出典：中央防災会議資料を基に、航空局で作成

※具体計画で位置づけられる空港 及び 南海トラフ地震、首都直下地震の地震防災対策推進地域等に所在する空港について記載（島嶼部は除く）。

※想定最大震度は、空港の所在する市区町村で想定される最大震度であり、「—」は最大震度一覧表に記載がないことを示す。

3

国の防災上の計画等で位置付けられている各空港の被災想定

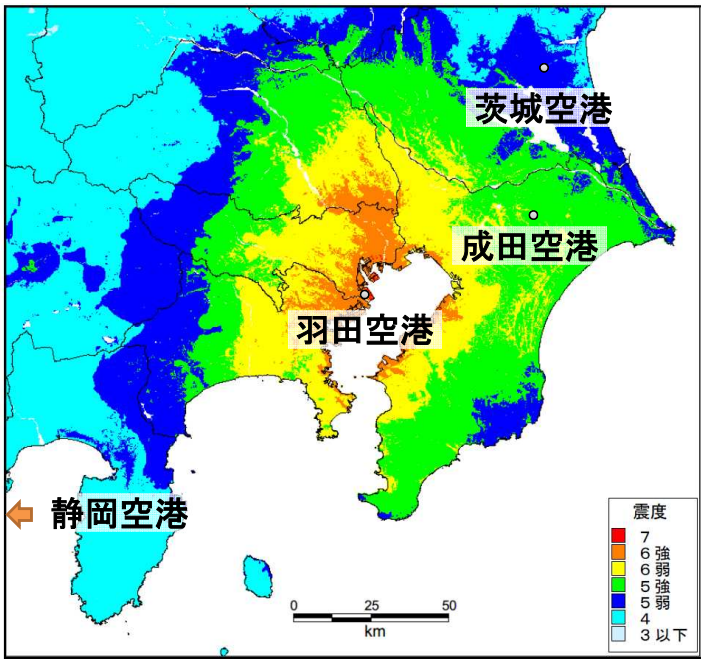
 国土交通省

空港名	具体計画に位置付けられている空港	地震防災対策推進地域等の指定			南海トラフ地震		首都直下地震 想定最大震度
		南海トラフ	首都直下	日本海溝・千島海溝周辺海溝	想定最大震度	津波被害想定	
広島空港	○	○			震度6強		—
山口宇部空港		○			震度5強		—
岩国飛行場		○			震度6強		—
鳥取空港					震度5強		—
美保飛行場	○				震度5弱		—
岡山空港	○	○			震度6強		—
高松空港	○	○			震度6強		—
松山空港	○	○			震度6強		—
高知空港		○			震度7	津波により浸水し、漂流物や土砂の漂着、漂流物による施設の破損、場周柵の倒壊などの被害が発生する。	—
徳島空港		○			震度6強	空港の一部が浸水する。	—
福岡空港	○				震度5弱		—
北九州空港		○			震度5強		—
長崎空港	○				震度5弱		—
熊本空港	○				震度5強		—
大分空港	○	○			震度6弱	空港の一部が浸水する。	—
宮崎空港	○	○			震度7	津波により浸水し、漂流物や土砂の漂着、漂流物による施設の破損、場周柵の倒壊などの被害が発生する。	—
鹿児島空港		○			震度6弱		—

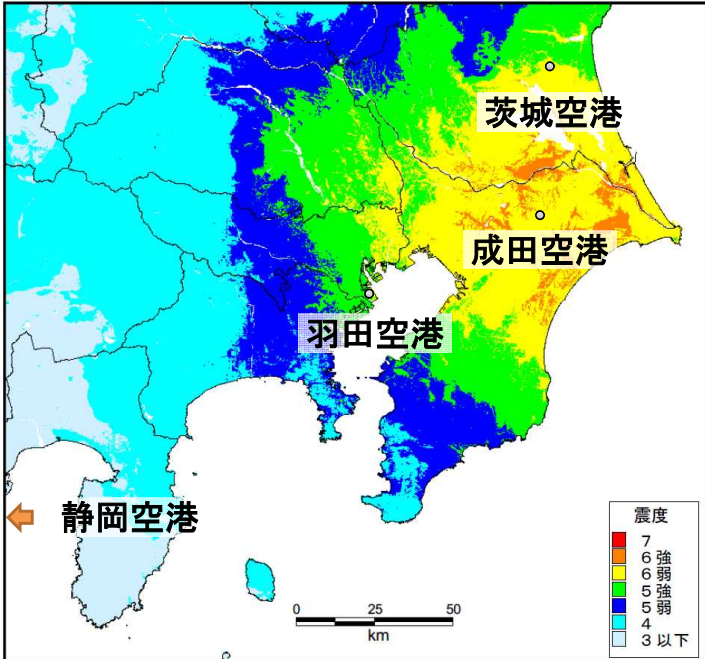
出典：中央防災会議資料を基に、航空局で作成

※具体計画で位置づけられる空港 及び 南海トラフ地震、首都直下地震の地震防災対策推進地域等に所在する空港について記載（島嶼部は除く）。
※想定最大震度は、空港の所在する市区町村で想定される最大震度であり、「—」は最大震度一覧表に記載がないことを示す。

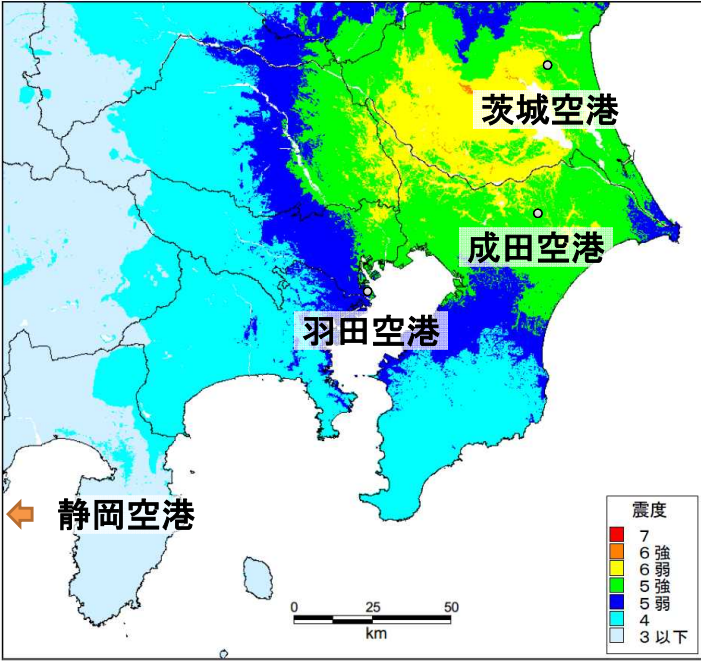
羽田直下地震
(Mw7.3)



成田直下地震
(Mw7.3)



茨城県南部地震
(Mw7.3)



【各ケースで想定される震度】

	羽田空港	成田空港	茨城空港
羽田直下地震	6強～7	5強	4
成田直下地震	5強～6弱	6弱	6弱
茨城県南部地震	5弱～5強	5強	5強

中央防災会議における想定津波の考え方

○中央防災会議「東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会」において、東北地方太平洋沖地震を踏まえた対策についての検討が行われ、以下のような想定津波の考え方が示されている。

① 発生頻度は極めて低いものの、甚大な被害をもたらす最大クラスの津波（レベル2の津波）。

 総合的防災対策を構築する上で想定する津波

② 最大クラスの津波に比べ発生頻度は高く、津波高は低いものの大きな被害をもたらす津波（レベル1の津波）

 海岸保全施設等の建設を行う上で想定する津波

出典：中央防災会議 東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会報告（平成23年9月）